

## 能登臨海実習 2025

【7月28日（月）1日目】

探究科20名、元気に能登へ向かいました。

最初の見学場所は能登里海里山ミュージアムです。

この博物館は、能登の自然や文化、歴史についての多くの展示物があり、またそれらを実際に触れることができる体験型のミュージアムです。今日は館長さんが直々に解説してくださいました。



その後、のと海洋ふれあいセンターに移動し、磯実習を行いました。

まずは危険な生物や磯実習の注意点などを、能登里海教育研究所の浦田先生よりレクチャーしていただきました。



ウェットスーツとマリンスーツを着用して磯に向かいました。ウェットスーツは、からだ全体を尖った岩や貝殻などから保護してくれるのと同時に、水の中で浮力が出ますので溺れる心配もなくなります。おまけに、ウェットスーツを着ると生徒たちのテンションも爆上がりして磯実習に向かうやる気も増します。ほとんどの生徒がウェットスーツを着るのは今回が初めてで、吸い付くようにからだにフィットする感覚にやや苦戦しながらも喜んで着用していました。



快晴！絶好の海日和です！



生徒たちは元気よく海に入っていました。探究に使用する生物を採集するとともに、海中の生物を観察しました。



九十九湾の磯は透明度が高く、生物相も非常に豊かです。簡単に多くの生物が観察できます。ヤドカリやスガイ、イシダイやフグなどが県陵生をお出迎えしてくれました。





研修室にて採取した生物の観察や分類を行いました。金沢大学の先生方の助けもお借りしながら、探究に使用するヒトデやカイメン、ヤドカリなどを多くの生物を採集することができました。



磯実習を行った能登町から、今夜から宿泊する羽咋市の国立能登青少年交流の家までのバスの道中では、地震からの復興が進まない能登の現状を目の当たりにしました。道路の所どころに陥没や亀裂、路肩の崩壊がありました。またアスファルトが波打つようにアップダウンする中を、バスは速度を緩めながらの慎重な運転を余儀なくされました。改めて能登地震の凄まじさを実感するとともに、復興が進んでいない現状に胸が苦しくなりました。



明日からは、金沢二水高校さんと合同で探究を行います。今夜は各班で探究実験のプランニングを行いました。明日も頑張ってもらいたいです。